

阿蘭陀をふり
下

洋学文庫
文庫 8
C 200
2





紅毛漆巻の下

右に糸織りの中、華より海まで
 ものと同きもの多し ○ 縞 ○ 紗
 縞 ○ 縞子 ○ 大縞絨 ○ 縞縞 ○ 純子
 ○ 七線 ○ ちやう ○ 縞子 ○ 又線 ○ もろ
 ○ もんけん ○ ちやう ○ 八 ○ 糸 ○ 紀
 ○ 紗 ○ 紅毛錦 ○ 紅毛令入 ○ 令入



○さくさく ○今ざさくさく ○あやむらさめ ○
 紅花湯 ○さんとの湯 ○せいらずぶま
 ○かびあんあり ○焚石の花 ○白線 ○
 麻布 ○皮るい ○敷皮 ○いんぞん
 ○たふちあや草 ○しろる ○さんとも ○
 山豆 ○紅皮 ○まほくま多し
 ○茶種 ○花多く 持ちまきるを思
 けしんご 療治し 西七日中

ちびなががよのこあがりて 母かよ
 あーむうーりり年々今白い
 ちんちんいらく 痛ねまこくをえ
 母あとり 新方より 古方より
 かもまこくは 古方とすく 新方
 ともちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん 効験の 実方と用由
 ちんちん 他はの ちんちん ちんちん

方あり——まこと茶も他由と
 用ひや、異あり他由と、草根
 樹皮と、樹皮より入る湯よりせん
 月也、おしんご、玉ハ、おしんご、ま、茶
 と、おしんご、灌より、おしんご、おしんご
 と、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 には、何れの方用るとし、おしんご、おしんご

波、おしんご、おしんご、おしんご、何れの方
 には、ま、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 とあり、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 他由と、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 には、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 には、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 には、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご
 には、おしんご、おしんご、おしんご、おしんご

紅毛談卷之下

衛治いぢもるありけ休とや地方とがうり志
うしとぞ

〇こいら昔むかしうり番人ばんじんのともぞう
おけもの西天さいてん登のぼれ方かたのびまばん
やく子こ四よりこそ金かね大熱おほい國くにえし
し〜りうん夏なつの吹ふち沙すなるさてやけく
ちのど〜くあるやんはこびかのもも
海うみうし〜ららある車くるまよのりもて

かろうし〜るる〜る〜る 轆ろく轆ろくとまるとる
と海うみ来きす志しるふけやいふふはうは大風おほいに
〜るるよよなな〜りりも〜しし風かぜよよい
ぬまま車くるまとららががすす〜ありあり
つてつ〜ある人の海うみをを〜りり〜る〜る
バい忽いちち馬うまととけけのの〜ある〜る〜る
あるもの珠たまのの〜ともの〜る〜る
ある人ひと軀みとと〜りり又また〜る〜る

ともなれ死を飛ぶ換りあるものと臟腑
 とをなまひとて法系と脳内よつち地
 中へ埋銀といつらとあるとまらつた又
 一説ははろくの歎け無とちほり乾音
 柘附あらし植合せ作りあるものとよ
 紅毛人といふとごうましくざらゆられば
 何やといふ説もさろくの流るる一
 番人もかやうなる説とやう及びぬとバ

とも元禄時代おもしろきくららるる金
 祿人アツた異形といふとささきをゆく
 としおもしろきといふとささきをゆく
 んろ先ハ陶宗儀が輟耕錄に載ある者
 天字國よひしりのおん人何う法人のま
 めふおとともゆくと茶とせんそつ子
 れ食ふのと終ちなると密とらうといふ説
 とも死とてつとてと権よのくとも密

江戸

五つと書畫のしふ年月日附と書
百年と経てかあべーとて中よ
堪ゆるそほそ時ふりてと出
葉の痛り申らふ疾ぬらよるか
とどこぬと本乃伴とまらまら
ともいふとどこぬとの流よらて人
のこいらとぬあるものちう人
不活香乳香尔と糖う合るまら
のこいらとぬあるものちう人

本草綱目所載の質評るまら
今まらとて用るふ此効能治病
たこのの時よ者〇身の中此効能治病
バあどてまらとて用る〇治癒よ〇
く酒にそ碎ほども〇治癒よ〇
ふ〇血とめふ粉うて付〇腫つ之疾
るそら〇吐血下血ふ〇夜癒出ある
ふ〇腹こむるふ〇眩暈ふ〇胸痛ふ

○震^{ちん}也^ち小^こ ○赤^{せき}才^{さい}つ^つく^く痛^{いた}ふ^ふあ^あり^りし^しも
酒^{さけ}を^をも^もす^すう^うつ^つて^て又^{また}眩^{くら}も^も ○^お癩^{しか}血^{けつ}身^み
の^の月^{つき}ふ^ふ落^{おち}く^くち^ちる^る小^こ ○^に氣^きつ^つけ^け小^こ ○^ちち^ちわ
く^くふ^ふ酒^{さけ}を^をし^し ○^早早^{はや}く^く ○^空空^{くう}あ^あく^く小^こ白^{はく}癩^{しか}
才^{さい}一^{いつ}加^か之^の定^{ぢやう}も^もあ^あお^おく^く ○^小小^{せう}便^{べん}通^{つう}せ^せぬ^ぬ小^こ
○^男男^{おとこ}女^め血^{けつ}を^をま^まま^ま言^いふ^ふま^まあ^ある^るふ^ふ二^に七^{しち}首^{くび}酒^{さけ}或^{ある}ハ
湯^ゆ少^{すく}し^しも^も二^に三^{さん}分^{ぶん}づ^づ月^{つき} ○^片片^{ぺん}肢^し痛^{いた}筋^{きん}
生^{せい}ま^まあ^あ才^{さい}一^{いつ}加^かる^る月^{つき} ○^血血^{けつ}質^{しつ}氣^きつ^つれ

血^{けつ}多^たく^く出^いる^る時^{とき}血^{けつ}止^とり^り氣^き付^つく^く ○^血血^{けつ}氣^き
流^{なが}る^るあ^ある^る ○^酒酒^{さけ}は^は碎^{くだ}る^る小^こ ○^食食^{じき}傷^{やう}小^こ
酒^{さけ}あ^ある^るい^いち^ち湯^ゆを^をし^し月^{つき} ○^毒毒^{どく}害^{がい}氣^きあ^ある^る
小^こ粒^{つぶ}を^をし^して^て踏^ふみ^みぬ^ぬを^を分^{ぶん} ○^方方^{かた}の^の月^{つき}は^は血^{けつ}
血^{けつ}多^たき^きち^ちる^る小^こ ○^方方^{かた}の^の内^{うち}血^{けつ}風^{ふう}何^{なに}も^も小^こ ○^膈膈^{かく}
子^こを^を取^とり^り ○^大大^{だい}熱^{ねつ}氣^き小^こ ○^刺刺^さす^す病^{びやう}小^こ ○^淋淋^{りん}
疾^{じき}小^こ ○^積積^{せき}み^み酒^{さけ}を^をし^し ○^懐懐^{わい}人^{にん}氣^きと^と氣^きを^を小^こ
火^かふ^ふく^くと^と興^{きやう}し^し心^{しん} ○^ああ^ある^るひ^ひけ^けた^たる^る小^こ

夕ゆふ夕ゆふ用もち〇〇瘧さつよよぢぢぐぐ〇〇瘧さつ
 瘧さつよよ〇〇三さん瘧さつよよ名な取と用もち火か人ひと五ご二に
 五分ごぶんでで但た飲のけけんん酒しゆ酒しゆののまましし用もち小こ
 思おもひひをを方かたほほどどでで飲のけけんん酒しゆ酒しゆののまましし用もち小こ
 糖じやうくくええままよよーー何なにももももササああよよままんん合あ
 ぢぢ

〇うんぢぢぢるうんぢぢぢる 一一名なををららいいのの心こころ後ご
 ととううんんととううふふ角かくのの心こころ心こころ後ごととぢぢぢぢるる

ののととららふふぢぢぢぢととをを略りやくしてしてううんんぢぢぢぢるるトト唱なふふ
 主しゆ瘧さつ瘧さつのの心こころまましし一一角かく何なにりり瘧さつ瘧さつ中ちゆう
 ののよよららおおちちるるものものあありりとと通とほるる瘧さつ瘧さつぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢるるららいいぢぢぢぢるるんん本ほんままのの小こ載するる所ところのの咒まじな
 けけれれあありりけけいいものものもも川がはままらら毒どくとと解とけけんん
 番ばん人ひとのの物ものががららにに沙さ漠ぼくののままおおよよ川がは
 何なにりりままららいいままらら毒どく何なにりり何なにりりととぢぢぢぢるるふふ
 ううんんぢぢぢぢるるままららいいままらら毒どく何なにりり何なにりりととぢぢぢぢるるふふ入い

ちぢくくつさるるのちろとのむ
 とりふこれと見るとぬり流野も随
 て水とのむ角れ切らちあけ身は似く
 幸二尺より八九尺まで何れ角乃
 肥稜穀は似く薬縞色糸は志が
 おくあらしうあう角の中はすあう
 辨より山と換切ふとま切く初名白
 小して微濁又ありまきくはたきさ

こし効能想どて毒解より一〇
 今らごうまよ〇あふ漏くまふ〇瘧疾
 こし何れを腫物生し熱を何
 るしとみ或も破しすり竹〇大
 熱病ふ〇瘡ふ〇喉痺ふ〇系腫
 相よハ門てよ一〇毒虫蟻多ふふ
 竹〇魚血古血ふ〇臍毒ふ〇瘰癧
 一〇氣つれらるるのみけりたのるを

すうとまきと用○たなほふた他た兼た根
たたふとたたふた一た勝たやどたたたまたぜた用
○傷たたふた一日たよたふたなほたと用○河た豚
たこたはたくた毒た魚たよた碎たとたふた○肥た瘠たの
熱たれたさためた熱たとたらた時た用○たあた一たこた瘠
物た味たあたふた付た○妊た娠たうたとた用たひたどた○
酒たのた碎たふたまたうたしたすたりたと用た古た祝たのた石
れたいたうたふたもた醫たとたあたしたけたメたとた付たすたりた用

他一を分ほぐて用何の薬とも拾合
かー

○びたマた漢た石た玉た匣た方た出た養た是た揚た藍た
也たきたうたとたふたあたりたりた出たるた毒た経たりた
急たのた血たとた稀たりたかたとたあたるたものたとたあた付た
一た毒た解たあたりた○今たはた傷たふた○またいた実た冷たとたるた
以たるたあたしたしたとたらたるた○二た痢た病たふた○忠たらた
ふたらたよた○忠た二た解たとた他た一た官た何たとたらたるたあた

あしらの地を右の菜用にするハまを紫
と梅の皮二つからつる肉片一産ち
うらめしむ

○すてんをいませぬハ大坐名を
之圓をくぬといつるち何なり
供がれ時々西方より多くは
魚あり日本の鯨魚かどは
ありるを煮たり是とそりて

流玉うるまを腎を補といふ

○まきや あんがいかとし玉
物る合菜あり和信おんご
とつる菜はありもつる
病の月白くはすくといふ

○せいくる 海苔の牙ありといふ

諸毒けしふ

○さくちりきと 漢名 蝦菜

諸病治腫物よありしとく付る
 近き自和邦よ出平賀氏徳州より
 神と出せり上徳山郡大野村より出
 ○すらんがむえん 番人のつとけいもの
 蛇のがーらふせる石ありしとく飛
 奏ふれどくこちき白こもありしと
 もありしとく白相間も有り梅もふ
 志ぢんのくちらとちらどぢ大さあるふ

とらりけ形ふ掬らるものと人へしり
 しく腫物の膿と吸ふも吸ふるふ
 とありしつとくまばしとく膿とと
 くえ吐出せしとみわけてて幾度
 も用るを此和方にも用ゑらるる
 就角とこのありふこしらん用る
 よすらんがむえんよ効能相がら
 ばといつとく蛇のふとつるも就角

江戸英大...
 〇一...
 江戸英大...

よりもこしうぬの番人の中傳
れ流ししもあま或人曰湖漣の
ししもけものことゆららつた

○へいさくをさる 羊のどくくある歎
の腹中よせむるふかす一毒解
あり○癩疥よ用但し時方と温
汗とさきくより○服冷痛り
○驚風よ○胸づらより一衣

よき分ほごつ角又氣力つと人よ
二ふ程で用但し細ふすり礫と
飲汁ハ酒も湯もす

○こころよ 和倍海や〜をら〜
耕福よ出る火矢刺さあり小兒の赤脈
よあらしすり 脈のありふ付く○淋
病よハ灯心十筋せんどそをけし再
○おひろのふ 合茶志る 散茶あり

多むじしかきばり月影さあむじしは
 米ぬくの油をしきと付る年鷹をき
 こころ病よふさびしきと付る
 志ぬあり今ハ華人もさき方とけと
 て月由五石散と名づく何要が服せ
 五石散と同名は方あり

○ころんべつこ 何きくのこころ骨痛
 ○へいむしる 人魚の骨からしき結

けもの偽多しきと試るよ女人の髪を
 りのこ毛を火中へ投じてやく髪
 焼けざるをよとん 肥瘵の危急は
 病よ先と用也 あやうき

○るざりり ころると云圓よりみかり
 之血氣及び諸病よ用也

○ちちてこぬる 美ごくけいあり
 蓄れごころるよのあり 毒蛇とあり

江戸巻言談卷下

ぞく和方小治にていぬくと称する
 もの二三種あり桐の本は類あり
 まして一種ハいぬまでの類あり
 知社同きものあづくる
 ○もあてちんもん右同しあり
 ○へいあるぼろと 松の腹申する
 草ありあり

○あくアツんるま あくまきびの尻ふ

生る石ありとらふを飛破見ゆ似く
 ちいさくも海草あり 法林病する
 ありあめなる

○けいーがとる 牛の乳と移る
 たるものあり 伊もく法合油より
 合目年の纒糸と利かうと
 けりの丸茶とあり 衣は砂糖をけ
 小児の百日嗽と利かう

○海人といふ 魚の油ありとらひしもの
 切を紙にのりよつけてまを痛と止む
 ○らあきりけしもの朱砂と端とし様
 つとあるやうあるものあり小瘡よりく
 細きとも茶葉をちりてすも
 らし文房の具といひしものちふや
 紙ふりしものべとへるやちあす
 かうくともハレおしるやむり

そまらみりしものちりしもの
 雜

○すかんす 是ハ茶葉よりハつと
 とも紅毛糸科持ある腫物の膿血
 とぬふふ候しものあり 和邦と海
 綿より紀州相州あぶの海中より
 ち形よりありてすこし綿より
 こころこころふ穴あり浮るもの

海濱うきうきとらふ日かたし久きれ
王宮海より由

○ろくずせん志道がう へ海志を玉の海
高くよけるる事ありとらふ婦人産ふ
るまじ時とるまの藝とるふ深すま
ハ産むんとあつするすこーまふそ
たふあらしまらむとて備とすま
那度あふ葉徒もるも可なりとぞ

○かひ海道のしん福まは 今ハあふらん
いふまゝとらふ利倍の根ま阿葉の院
るまゝとらふ先ある里産あは法病よ
葉腹して効ありやけどよはけい
やまふしてあふとらふの神まはなる
○さふらん 紅花よ似くまふ
法病のしん月ひ他邦とら
久しと用ら病志よまふと由

○てごりうん 練茶あり圓茶を
赤ら志サ一香り丸なり

○あめんごうも 挑の實れとくある

ものあり漢名巴回替ありとくある

けもの砂糖よ和してよく作せしむ

治すむんもんとくも同物なり

○るごご らぬでのぬふよぬく葉のぬり

ふあくと鉄刻のりま思身あり

撥く法時物よくまぬあり

○魚んるごご これもるごごふ似るの

くまらなりぬるるごごうらと中あり

是もまぬりあり一番人毛をぬむ

るごごなり

○うつるごご 和名山椒よそに

おひぬのうら山椒より似たり効能

たふ回ト

○とうあざわ 本草所載の底野
地味りる赤い糖菓あり和信之
陰の起るせらるる白又婦人樹心
あり

○ちやあざわ 瓜として出る小
似るるを洗ひて乾し又礫
けある琥珀の如く光あり稻氏云
氣味甜と酒を煮るあり

○ちりめんていこ 檜の木れ香あり
味苦し或人云檜の木れ香いと
名ある油ありと

○魚くろぐさ 蝦蛇の皮やあり
○こつじんろ 草根あり和胡荽連子
似るる味苦し一味糊丸あり小豆
ふもらひ

○油菓る ○いせさうか ○ちるあめ

○あぶらごが ○玄の油 ○椰子油

○ちりごの油 け油二種の...
古油と今油...
今油は...
し...
べー

○酒の類 ○葡萄酒 ○肉桂酒

○肉桂酒... ○ちん...

けふりりくわり

○こまごんごり 漢名胡荽和名こが

とつふま悪臭あり番人つものふ食料

とす魚鮫のめあへといのし...
りり

○せうごのり せうの類ありけが...

いあ あいん...

○大甘ま 和名紅毛甘ま...

〇くらしむとくもあつとくじも神華此
 甘きもの性かきかきくくはは
 紫種ふぢま将良すくくも華船
 華よおく船くくくくくくくくく
 〇くらしむとくもあつとくじも神華此
 石ありらぬとくもあつとくじも神華此
 毒も酒もくくくくくくくくく

〇くらしむとくもあつとくじも神華此
 和邦も伊豆の樹ふ石を列の滝隈
 〇くらしむとくもあつとくじも神華此
 此れはくくくくくくくくくくく
 舟くくくくくくくくくくくくく
 諸所物くくくく
 〇くらしむとくもあつとくじも神華此
 漢方くくくくくくくくく

ぶらむむと番人けなれ家とらん言
甘あし糖とを名をてれいざらとら他
邦れ系神膏とらざとく流病よ
もつちらとら

〇らんぢやぶいり 和名紅毛石竹と
りあもりた香とよくとらる和邦石竹
よりなる一とら花の家とらり面部
は腫物とらる

〇ぼらん けさか時斗の車とらる
とくし和名時斗と名づく勤社とら
つまびとらあらず

〇たひひらりちんでん和名けりのみ
申ふせびとらら藤蓋ふ似とら
葉効ありとらとらとらとらとら
くると民和利あり

〇ざらとらすていん 和名合名晶

といふに質なる晶の似くして色は
 合ふるありて葉の如くありて
 色は白くありて玉の如くありて
 ○令○浪○あなね○珠○鏡○湯
 ○名浪
 ○寶石の如○珊瑚○琥珀○水晶
 ○琥珀○珊瑚○珍珠○瑪瑙
 類多ありてといふに

大抵とてふ記すけふ著しく
 いろくあり○物々々々○物々々々
 大○麝香○胡椒
 ○道々於て○持あるに
 ○潭天候○五星候○
 是ハ他州のぶんと同ー○

平海の二程あり。○世界の番はも平
 海の二程あり。○かくこの番は船は
 うし船と世界はゆくゆはくとさる船と
 みる具あり。○升降番ははまきん斗
 あるもの中とさうめと中人破子の筒と
 いれき肉(ち)をひきおくさるる高時
 一陽より算を算すは略くふくむせん
 とはかるさ相ふ二十四季の書付

ついでそり時候とあるさあり。○まん
 びとささるるちどある本の中は鉄の棒
 と入る機園ついでそり車とさうとせば
 中の鉄の棒おとく人力の及ばざるおもさ
 ものとさうつらぐるけおお料及るさ
 く他州の及る細工あり。○らんびさ
 是ハ法の業種の積汁と蒸つげさ
 及るあり華人ハ蒸すお籠ととり

○かきつふかきへく○かきつふかきへく
け小カハヌと靴のうらふ入れつまも出
けとこいそまもやまあまら栢とある
こま女を流し○巻紙これハ後を
ぶいぶんうまくのぶくまると香合
りれと書と一様伴せるやふまら
ものあり物とまんと歌るとまら
書画のふふとまらりまらまらまら

とこハ申の奴とびおく何まらまらりれ
とこありとこハ細上人希るまら
○強さおる様とびおら細とみ
○びいどろやみ太小画格うらけ流
洞鏡のしつりまらまら流ぬとまら
とす
○ぎやまん け石も晶小似くまが
まらくまら晶の流章びいどろまらお

小画板と彫るにけるあつてハ彫一と
 何と云はれるを云一といふも人乳
 一と夜つけ切るといふハカーヤと云ふ
 あつてと云ふ角何と云ふハ八角と云ふ
 ガーらふ磨搥を人ふきりてめ番
 人々ふ旗のよもちあつていふ山川
 此風系人目の如くといふもやと云ふ
 ぬありといふ

○目づみ子 ○やけ目子 ○ろ晶目子
 ○硝子目子 ○硝目子 ○このほ子
 ○千里目鏡 ○追目子 ○内像目子
 ○碓目子 ○火とり目子 ○みま目子
 ○敷目子 ○虫目子 ○を年虫目子
 小志海をとりあつてりサきと云ふ
 の何と云ふはるふ二と云ふのあ人のひ
 ド何と云ふはるふ人髪と云ふ

えけらふあしとさ母指りしあんせん
髪さつひふいし師アムさざるがまええ
まば竹のやーのこくこはらあふー
あむと少年此れま一合きくを人
の髪はとまほほどつあーつまらあけ
アム有る奇美ある細工あり〇まかてぬ
ぐひ これらうすまこさぬと又さるは薬
牡丹菊さぬらうくのたんとあむよ

よせ作らあるものあり今うら華人も風
流のまゆらさし用ひし線紅巾と名づく
〇めりやと 子袋所 ざくろと何ふ
知りあるものありむ希まは惣身が
るやあもあさるあり
〇あねささるせりさい 是ハ流痛
のある病人の痛さうらちとさる思あり
せきとさるうらはけらるをすまして成

江

然しあるところの人れを今くはたし
れ名と人れを中よりちとるもの
あやしきまは似たりとんども今ま
たは二つをし秘撰するものあれば七
理あるものしつゝさるべしすむに
之等の新迦佛ハ沙羅雙樹のちえ
入滅するし小舟中よりちとるべし
中あはくは燒舍利とありしるこれ

法人のちるまありまこと仏經にも石
明まありしあき想方より大端とある
かど画とあるあしもあるしくやちの
理とありし佛經にもあるものあり
あはるんまこと中華に書くもの南蠻大
とありし戲とありしもの撰くものあり
又五仙傳とありしものとせし道土も
これありしものハ英域の版ありしハ

江戸巻末の...

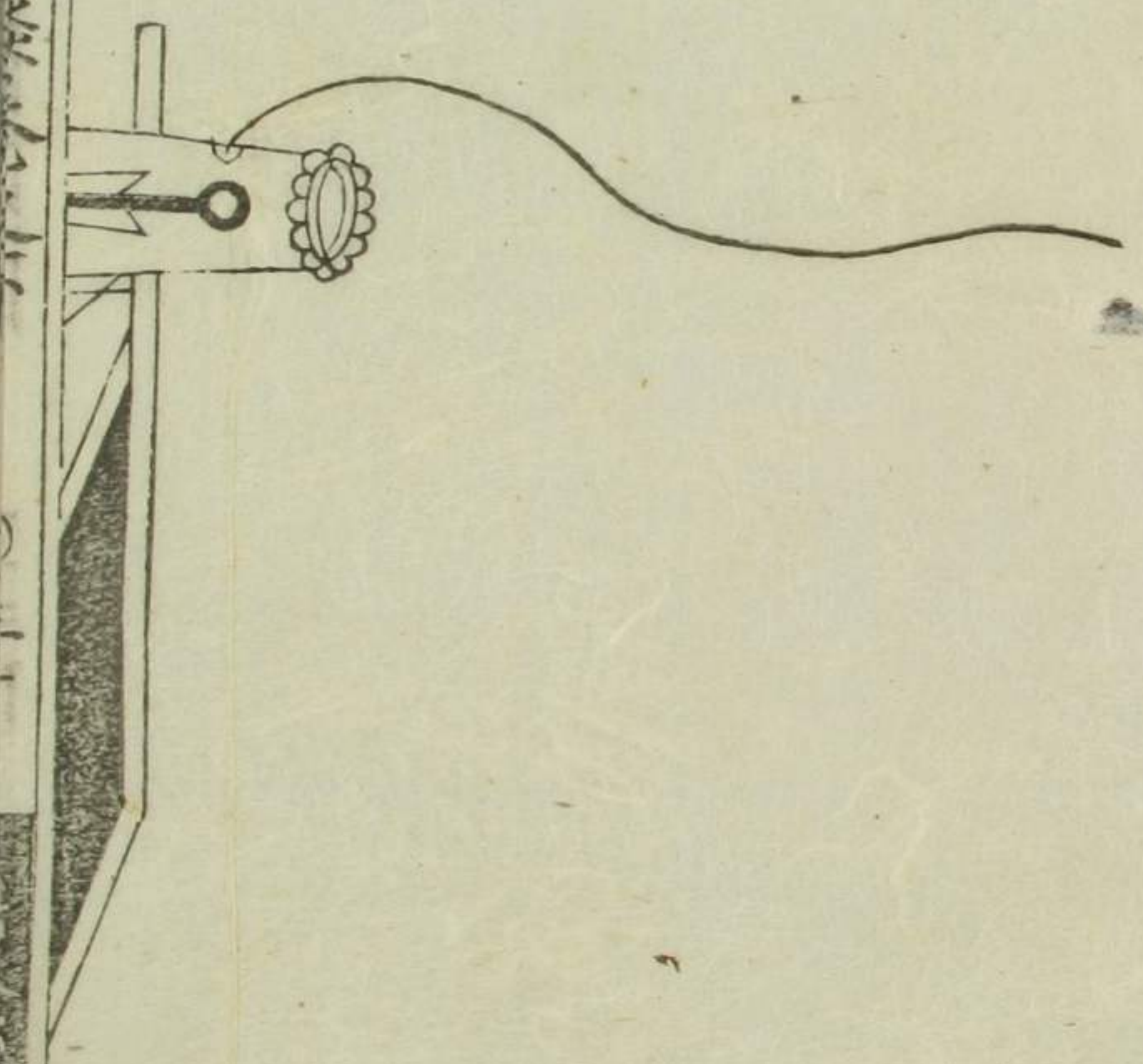
文治の比しや系^き我^が我^がの^たた^たと
 ころふき人の何よの死^したる^まと^風祭^祭系
 大^おあ^あく^く胸^{むね}の^何なりと^今なる^とん^とあ
 やし^しみ^みん^んけ^ける^るあ^あら^ら火^ひの^えお^おく^く想
 方^{かた}と^とあ^あや^やさ^さつ^つと^とあり^りあ^あか
 奇^き矣^ある^るあ^あく^くあ^あく^く系^{けい}極^{ごく}定^{てい}家^け口^くの^見死
 け^けん^んく^くら^ら今^{いま}も^も又^{また}婦^ふ人^{にん}敵^{てき}在^あり
 驚^{おどろ}く^く様^{さま}の^しと^とハ^ハ火^ひの^おど^どる^るの^あり^先

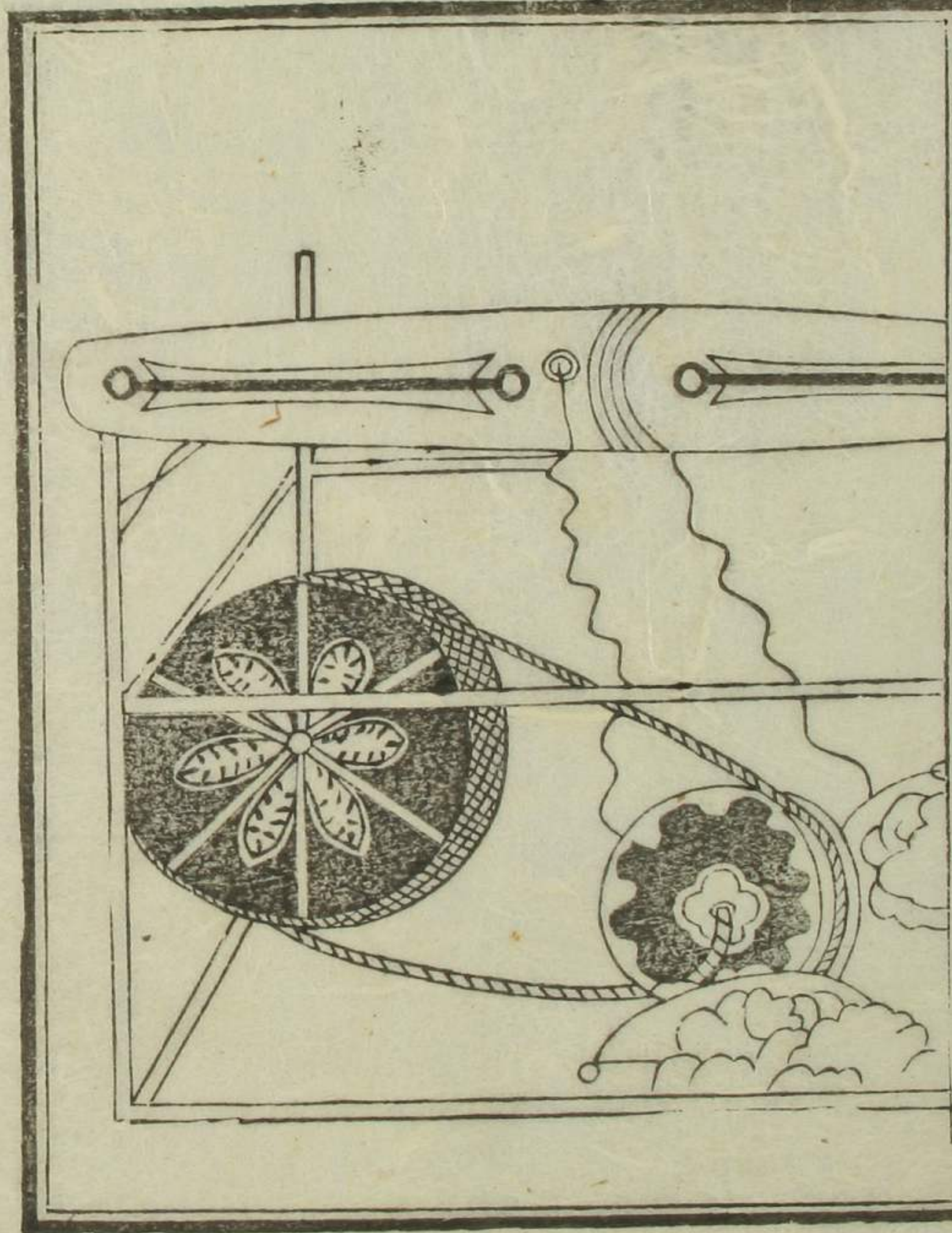
おより蕃^{ばん}人^{にん}は^まま^まし^しと^と仰^{おほ}り^知る^るもの
 あ^あく^くん^ん平^{へい}人^{にん}の^目より^らま^ま怪^{あや}し^しと^とも
 教^き方^{かた}の^人は^は生^{せい}賢^{けん}あ^あく^くら^らか^か系^{けい}新^{しん}も
 ろ^ろく^くや^や怪^{あや}し^し乃^{すなは}ち^ちあ^あら^らく^くら^らふ
 志^しと^とも
 志^しと^とも^らり^りと^とら^らり^りて^ていの^番
 は^は思^{おも}横^{よこ}西^{せい}人^{にん}幅^{はく}八^{はち}寸^{すん}三^{さん}寸^{すん}并^なき^き人
 六^{りく}寸^{すん}内^{うち}の^車之^の何^{なん}り^りあ^あお^おの^くら^らふ

江戸巻六

筒のりてきまらう 計細と
すこきまらうがごとく痛おたる病人
よのせし療治する人の事とまらうす
まらうく車とまらうせは病人れ
とちる計細く言者秘するもの
そととに療治の人痛おと持のえ
はつけはあち大物とまらう 秘す
此秘法といふ人は療治とまらうえはる

糸の手てきれ番





○時^{けい}外^{がい}新^{しん}大^{だい}小^{しょう}後^ごく^く 桔^{けい}餅^{びやう}の^の製^{せい}法^{ぽう}
 袋^{ふくろ}に^に 根^ねを^を ぶ^ぶ けい^{けい}の^の 何^{なに}多^たい^いの^の 年^{ねん}
 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 他^た州^{しゅう} 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 ○ 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 の^の 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 あ^あ り 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り
 二^に 里^り せ^せん^ん 一^{いち}つ^つ 交^{まじ}り^り 志^しを^を け^ける^る 自^{みづか} 吸^ひ 痔^ぢ も^も あ^あ り

江戸巻下

糸手言書三十一 〇三十一 梧陰

とゞて今ハ東都にても細之人あり
○又腕の留○どゞあゝとて是も
申華ふいつるなまといつるものと
同くは画の製法之とて一被画
此醫人よりある商賣方とのま何ん

紅毛漢卷のト大尾



黎春先生編輯書目	梧陰卷
合鑿本艸	三十卷
隨觀寫真	三十卷
本艸綱目會讀箋	十三卷
本草綱目補物品目錄	二卷
同後編	三卷
都老子	四卷
龍宮船	四卷

江戸文庫六

紅毛談

〇三十二

採藥便記

二卷

紅毛談

二卷

春秋七草

一卷

甘蔗記

一卷

尺八志

一卷

大便經

一卷

河豚禪

一卷

云のふりま

一卷



黎春先生著

乙酉
試筆

紅毛談

梧陰菴藏

八

八